



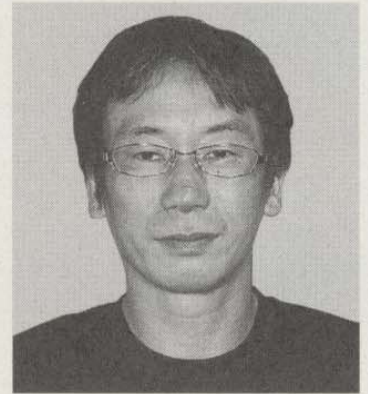
我ら、日構専卒業生

広がる同窓生の ネットワーク

兄弟3人が 日構専を卒業

【Vol.1】

角鹿 勝保氏



角鹿鉄工(東京都)
専務
昭和63年度
鉄鋼構造専科卒

実家の手伝いをしながら鉄骨加工のイロハを学べる学校として、父が当時の全構連の方から紹介を受けたのが入学のきっかけでした。2年制の学科で、1年目は溶接などの技能実務、2年目は冶金的内容を中心に学びましたが、高校時代から家の手伝いをしていたこともあって、比較的順調に各授業に取り組みました。

資格については、『取れるものは在学中に何でも取らせる』という雰囲気は当時なく、私自身も卒業後に取った資格の方が多いほど。そういう意味では、今よりものんびりした校風だったように思います。

また同校の特徴は、業界内でも著名な教授・講師陣による充実した授業にあることは間違いありませんが、ファブ経営者の子弟にとっては、同じ境遇の仲間を得られることも大きな利点です。就業前の若い時分に全国か

ら集まった仲間とつながりが持てることは、将来に必ずプラスになります。ちなみに角鹿家では、私のほか弟と妹も日構専の卒業生。兄弟にも入学を勧めるくらい満足度の高い学校です。

日本溶接構造専門学校 (略称=日構専)

1977年開校。溶接および検査技術に特化した国内唯一の技術者養成機関。理論と実践を両輪に据えた教育が特徴で、資格取得対応にも力を注ぐ。卒業生は、鉄骨ファブの子弟を中心に800名余り。